事業常任委員会 茨城県かすみがうら市視察概要

かすみがうら市は、国内第２位の面積を誇る湖「霞ヶ浦」と筑波山系に挟まれ、東京から約 70 ㎞、県庁所在地の水戸市から約 30 ㎞に位置しており、水戸街道沿道の繁栄に伴って発展してきた近隣町村が合併を繰り返して町制を施行させた旧千代田町と旧霞ヶ浦町が平成 17 年に合併して市制を施行した。市の特色として、山と湖の恩恵で温暖な気候状況にあって果樹栽培を中心とした農業や霞ヶ浦で獲れるワカサギやシラウオなどの豊富な水産資源を活用した製造業が盛んなまちである。

同市には、霞ヶ浦沿岸に整備された総延長 180 ㎞のサイクリングコース「つくば霞ヶ浦りんりんロード」が通っており、多くのサイクリストが訪れている。また、平成 24 年からは全国でも数少ない、公道を使った自転車耐久レース「かすみがうらエンデューロ」を開催するなど、サイクリングを軸とした観光振興に力を入れている。

しかしながら、サイクリストの数自体は増えているものの、その大半はコースを素通りするだけという状況であり、観光入込客数が県内 35 位と下位にとどまり、観光誘客に課題を残していた。

そこで、平成 27 年には、農水産品などの地域資源を活かしたサイクルツーリズムに取り組むため、顧客層関心度調査や、女性やファミリー向けのモニタリングツアーなどを実施し、地域資源とサイクリングを融合させた新たな観光プログラムを企画した。さらには、翌年の平成 28 年、地域活性も目的とした６次産業化に向けた取り組みも展開するため、地域資源を活かした飲食事業や農水産品の加工販売事業を行う事業主体として、市と民間企業、地元金融機関の共同出資により「(株)かすみがうら未来づくりカンパニー」設立した。

同社では、果樹観光農家での旬のフルーツ狩りをはじめ、史跡や動物とのふれあいなど、地域資源を中心とするスポットを巡ることが可能な体験型サイクルプログラムである「かすみがうらライドクエスト」を展開している。この取り組みにより、地域資源を点ではなく面で活用して利用客に楽しんでもらうことが可能となり、普段スポーツサイクルに親しみのない女性や、子供がいるファミリー層などの利用客も増加しつつある。

また、同社は霞ケ浦湖畔の景勝地「歩崎公園」内にある景観に優れた市交流センターを拠点としており、その立地条件を有効活用した、地産地消が可能なレストラン「かすみキッチン」と地産品販売の「かすみマルシェ」を運営している。同施設では、旬の果物を使ったスイーツ作り体験や地元食材を使った食事が楽しめ、かすみがうらライドクエスト利用者をはじめ、湖畔のサイクリングコースを通過するだけであったサイクリストなど、多くの利用者から好評を得ており、観光客の滞在性を高めることに成功している。また、地産地消をベースとしおり、地元生産者やＪＡと連携した６次産業化の推進や、地元民の雇用創出も生み出し、地域活性に繋げている。

今後は、サイクリストの舟運輸送の停泊場所のほか、カヌーなどの水辺スポーツの拠点として活用できる桟橋の整備を計画など、サイクリング以外の体験型観光プログラムの構築を予定している。また、市内に宿泊施設が少ないことが課題であるため、公共施設を改修した宿泊施設の整備を行い、インバウンドも含めた新たな顧客の取り込み強化を行う予定である。

事業常任委員会　茨城県行方（なめがた）市視察概要

行方市は茨城県の東南部に位置し、60 種類を超える野菜が生産される農業が盛んな街である。特に、サツマイモの生産が盛んで、茨城県は鹿児島県に次ぐ国内第２位の生産量を誇り、行方市は県内でもサツマイモの一大産地であり、味、品質とも市場での評価が高い。その地に、平成 27 年 10 月に開設されたのが、日本初のサツマイモの体験型農業テーマパーク「なめがたファーマーズヴィレッジ」である。

この施設は、平成 25 年に少子化で廃校となった市立大和第三小学校の跡地、約２ha に、サツマイモの菓子製造を手掛ける白ハト食品工業株式会社（本社：大阪府守口市）が約 50 億円をかけて、行方市、ＪＡなめがたの協力を得ながら、サツマイモの加工工場（新設：約 4,000 ㎡）、サツマイモのテーマパーク「やきいもミュージアム」が入るミュージアム棟（校舎再利用：約 1,500 ㎡）、地元野菜の直売所やレストラン、カフェなどが入る商業棟（新設：約 1,700 ㎡）などを整備したものである。

その目的は、特産のサツマイモを生かし、生産・加工・販売において大規模な６次産業を進めるとともに、それに「観光」「教育」「ＩＴ農業」「地域貢献」「子育て」「交流」を加えた、独自の 12 次化産業を目指すことにある。

その取り組みは、早くも成果を出しており、観光面では、農業をテーマとした観光地として体験・交流機能による交流人口の拡大を図ることで、開業から３年間での累計来場者数は 70 万人を突破するなど、賑わいの創出だけでなく、地域ブランド力の向上、地元農産物のブランド化にも大きく貢献している。

また、なめがたファーマーズヴィレッジが開業したことにより、雇用創出効果として 150 人以上の地元雇用を生み出すとともに、加工工場も設置されたことで、従来は廃棄されていた規格外品を含むサツマイモの全量買い上げが実現し、サツマイモ生産者の所得向上という経済効果も生まれている。さらに、所得が向上したことにより、高齢化に伴う後継者不足が課題となっていたサツマイモ生産現場において、若者の新規就農者が現れてきており、耕作放棄地の活用にもつながっている。これらの効果により、今後の市税収入の増加も期待できるであろうとのことである。

今後は、成田国際空港、茨城空港から近い地の利を生かし、外国人観光客の誘致、民間企業、ＪＡなめがた、行方市の連携による６次産業化のさらなる促進を図るとともに、「日本の農業をステキにしよう！」という取り組みをさらに前進させていくとのことである。